

***射場天体観測所の望遠鏡が東京天文台で使用された写真を発見(?)**

アーカイブ新聞で射場観測所の機材一切が1946年に東京天文台に寄贈されたというそれらの機材の追跡記事を書いている。今回は射場観測所の主要望遠鏡であった7吋半屈折赤道義望遠鏡(写真1)が1949年(昭和24年)に日本各地で掩蔽観測が行われた際、東京天文台によって岐阜市で観測に使われたと思われる写真を発見した。



写真1 射場観測所の7吋半屈折赤道義望遠鏡

写真1の望遠鏡にそっくりな望遠鏡が写っているのが写真2である。この写真は国立天

文台の台長室にあったアルバムの中の1枚で、メモ書きに「岐阜市にて掩蔽観測（昭和24年）この年日本各地にて行われた」とある。



写真2 射場観測所の7吋半屈折赤道義望遠鏡と思われる望遠鏡が写った写真

写真2の中央の望遠鏡が射場観測所の7吋半屈折赤道義望遠鏡である。この写真の左端には50mmバンベルヒ子午儀（写真3）と思われるものが写っているから、この観測班は東京天文台であろう。写真1と写真2の望遠鏡を比べてみると、写真2は7吋半屈折赤道義望遠鏡に同架された2本の望遠鏡が外されているが、赤道儀の様子などはよく似ている。

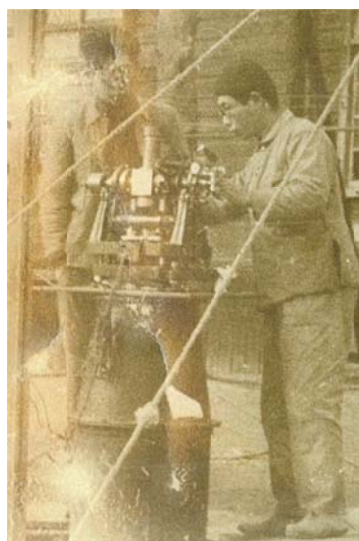


写真3

射場観測所の望遠鏡など一切が東京天文台に寄贈されたのが1946年であり、この掩蔽観測が1949年であるから、矛盾はしない。2つの写真は望遠鏡の向きが反対なので、掩蔽観測に使用された望遠鏡を左右反転し、射場観測所の7吋半の望遠鏡と並べてみると写真4、写真5のようになる。写真4の7吋半の望遠鏡の向きではバランスウエイトが望遠鏡の陰でよく見えないが、赤道儀の極軸の様子はそっくりである。また、特に赤経の目盛環、極軸の南端のハンドルは同一に見える。これらの事象は、射場観測所の望遠鏡を追跡している気持が強く、思い入れがそう見させるともいえるが、おそらく1949年に岐阜市で掩蔽観測に使われた望遠鏡は、射場観測所の7吋半屈折望遠鏡と考えていいと思われる。



写真3 射場観測所の7吋半



写真4 掩蔽観測に使われた望遠鏡

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp